

## 児童・生徒の生活時間に関する国際比較研究

○長ヶ原 誠（鹿屋体育大学大学院）

山口 泰雄（鹿屋体育大学）

屋外遊び時間 生活時間 児童 生徒 国際比較研究

### 1. 緒言

近年に見られる著しい社会経済的变化を背景として、人々の生活時間構造は大きく変わろうとしている。生活時間は、労働時間、生理的必要時間、余暇時間の大きく3つに分けることができ、その時の社会情勢によって大きく性質を変えるのが労働時間と余暇時間である。将来、成人の場合、仕事の省力化あるいは完全週休2日制の到来によって労働からの心身負担が減少し、それとともに余暇時間が益々増加していくと予想される。しかしながら、これが子どもの場合となると、彼らの労働的時間とも言える学習時間が増大し、屋外遊びに代表される余暇時間の減少傾向を引き起こしている。このように、大人と子どもの生活時間構造の変遷は時代とともに逆行する形で進行しているのであり、子どもの遊びの他面的価値が認められている今日、現代社会の諸要素が子どもの余暇時間を侵害しているとすれば、それは深刻な社会問題と言えよう。このような子どもの生活時間の変化を危惧して、これまでこの分野で多くの調査・研究が成されてきている（井上,1973; 高橋,1974; 加藤,1974; NHK放送世論調査所,1980; 丹羽,1984; 住田,1985; 深谷,1986）。しかしながら、わが国のように特殊な社会の中では、児童・生徒がおかれている生活時間構造も特殊であると考えられ、今後潜在的な問題を浮き彫りにしていくためには、国際比較研究によるアプローチが有効となろう。

よって本研究では、日本に住む児童・生徒の生活時間構造の特徴を明らかにするために、在米日本人児童・生徒を比較対象者として取り上げ、この中でも子どもにとって重要な位置を占める屋外遊び時間に焦点をあて、これに影響を及ぼしていると思われる社会的要因を検討することを目的としている。

### 2. 研究の方法

#### ①調査方法

両国とも都市部に住む児童・生徒を対象に、キャンプ場において集合面接法による質問紙調査を実施した。調査期間は1987年の8月であり、回収した結果、有効回収標本数は、両国において対象者の学年を小学校4年生から中学校1年生を抽出し、日本が122名（78.7%）、アメリカが76名（78.4%）となった。

#### ②分析方法

本研究では、児童・生徒の生活時間を自由時間、学習時間、屋内遊び時間、屋外遊び時間、テレビ視聴時間の側面からとらえ分析を行った。ここでは両国における各時間の違いを明らかにするために、 $t$ 検定による有意差検定を実施した。

また、屋外遊び時間の規定要因を分析するために、はじめに屋外遊び時間を従属変数として、計22の独立変数に対しピアソンの相関分析を行った。この結果をもとに両国あるいはどちらか一方の国において、5%レベルで有意性が認められた変数だけ（9変数）を抽出した。さらに全体的な関連をみるために、変数間の相関マトリックスを作成した後、抽出された9つの独立変数に対して、屋外遊び時間を従属変数として国別に重回帰分析（simultaneous model）を行ない、重相関係数、決定係数、標準偏回帰係数を算出し、屋外遊び時間に対する変数の規定力を分析、比較検討した。

### 3. 結果および考察

Table-1 では、平日および日曜の各生活時間の平均を示している。平日と日曜の屋内遊び時間や、平日の自由時間と日曜の学習時間は両国においてさほどの差は見られない。しかしながら、日本人児童・生徒は在米日本人児童・生徒に比べ、日曜の自由時間、平日と日曜のテレビ視聴時間が長く、これに対し平日の学習時間および平日・日曜の屋外遊び時間は短く、両者の生活時間構造はかなり異質なものであることがわかる。

Table-2 は重回帰分析を行った結果、屋外遊び時間に対して規定力の強いものから順に列挙したものである。これを見ると、自由時間は両国とも強い影響力を示していることがわかる。日本においてはテレビ視聴時間が、アメリカでは屋内遊び時間がそれぞれ強い規定力を持ち、両時間とも屋外遊び時間に対して正の関連を表した。また日本では有意性は見られなかったものの通塾が影響を及ぼしている傾向があり、アメリカではこの塾に比べてけいこ事・ならい事が屋外遊び時間を強く規定しており、両国における教育姿勢の違いを伺わせている。全体的には、屋外遊び時間は「時間」「仲間」要因によって影響され、「場」「家族」要因の規定力は弱いことが明らかとなった。

Table-1 両国における各生活時間（単位：分）

Item	Japan Mean		U.S.A. Mean	t Value	p
自由時間（平日）	148	<	156	0.55	N.S.
（日曜）	373	>	282	3.33	**
学習時間（平日）	114	<	134	2.04	*
（日曜）	133	>	129	0.30	N.S.
屋内遊び時間（平日）	92	<	112	1.81	N.S.
（日曜）	192	>	187	0.31	N.S.
屋外遊び時間（平日）	43	<	118	6.79	***
（日曜）	123	<	175	2.78	**
テレビ視聴時間（平日）	114	>	89	2.40	*
（日曜）	183	>	145	2.37	*

\* p < .05    \*\* p < .01    \*\*\* p < .001

Table-2 屋外遊び時間を規定する要因

Japan			U.S.A.		
独立変数	標準偏 回帰係数	単相関 係数	独立変数	標準偏 回帰係数	単相関 係数
自由時間	.267*	.529***	自由時間	.379***	.464***
テレビ視聴時間	.220*	.463***	遊戯集団成員数	.357***	.453***
友達と遊ぶ頻度	.219*	.347***	屋内遊び時間	.223*	.267*
通塾	-.143	-.190*	けいこ事・ならい事	-.205*	-.262*
遊戯集団成員数	.107	.352***	友達と遊ぶ頻度	.120	.181
屋外遊び場の富裕度	.067	.153	屋外遊び場の富裕度	.110	.258*
屋内遊び時間	.038	.331***	通塾	.104	.004
けいこ事・ならい事	.030	.064	テレビ視聴時間	-.076	.033
家族と遊ぶ頻度	-.020	.019	家族と遊ぶ頻度	.067	.350**
重相関係数	.639		重相関係数	.723	
決定係数	.408		決定係数	.523	
N	122		N	76	

\* p < .05    \*\* p < .01    \*\*\* p < .001